

公開講演会 最新化学談話シリーズ

令和元年度 第1回談話会
分子動力学シミュレーションで見る
アルツハイマー病原因物質

奥村久士 准教授

(自然科学研究機構生命創成探究センター、分子科学研究所)

主催 九州大学理学部化学教室談話会

日時：令和元年7月17日(水) 午後4時より

場所：九州大学理学部化学科 W1-B-315 講義室

(伊都キャンパス ウェスト1号館3階315号室)

内容:タンパク質は濃度が高くなると凝集し、オリゴマーという球状の物質やアミロイド線維という針状の物質を形成することがある。これらのタンパク質凝集体は40種類以上の病気の原因であり、例えばアルツハイマー病はアミロイド β ペプチドが凝集してできたオリゴマーやアミロイド線維が脳に蓄積することが原因と考えられている。我々はこれまで分子動力学シミュレーションにより、オリゴマーの形成過程やアミロイド線維の構造と揺らぎ、アミロイド線維の破壊過程などを明らかにしてきた。本談話会ではこれらの構造変化メカニズムを論ずる。

(注)この講演は大学院集中講義の一部です。

連絡先：九州大学大学院理学研究院化学部門

(世話人) 秋山 良：(092)802-4138

(事務局) 化学部門等事務室：TEL (092)802-4125